

「第90兵庫県メーデー神戸中央大会」実行委員長挨拶

「第90回兵庫県メーデー神戸中央大会」に、県下各地より多くの仲間の皆様方にご参集を頂きました。大変ご苦勞様でございます。

本日は、公私ともに大変ご多忙な中ご臨席賜りました、井戸兵庫県知事、久元神戸市長、立憲民主党県連代表・桜井衆議院議員、国民民主党県連・井坂副代表をはじめ、先の統一地方選挙を闘い抜かれた各級議会議員の皆様、労働福祉団体、友誼団体、兵庫退職者連合のご代表など、多くのご来賓の皆様方に対しまして、メーデー実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、今年は「90回」という記念すべき節目のメーデーとなりました。大正・昭和・平成、そして「令和」の時代へとつないでいく節目のメーデーです。また、この節目は、連合・連合兵庫結成30周年、中央労福協結成70周年、兵庫労福協結成50周年など、労働関係諸団体にとっても節目の年と重なります。

私たちは、100年近い歴史を超えてつながっています。先輩諸氏の想いと運動を受け継ぎ、永年にわたる歴史を積み重ねてきた節目にあたり、改めて、その歴史や原点を振り返るとともに、大きな転換期にある今日の時代認識を共有し、確かな未来へと新しい一步を踏み出すうえで、意義のあるメーデーになることを念じてやみません。

はじめに、メーデーの歴史や原点を少し振り返っておきたいと思います。

第1回国際メーデーは、1890年（明治23年）に行われました。そのきっかけになったのは、1886年（明治19年）5月1日のアメリカ・シカゴを中心とする労働者が「1日8時間労働制」を要求して闘ったゼネストが起源で、この頃あの有名な「8時間は労働に、8時間は眠りに、そしてあとの8時間は我々の自由に」の歌が作られたのです。

日本で初めてのメーデーが行なわれたのは、この国際メーデーから30年後となる1920年（大正9年）5月2日、東京上野公園で第1回メーデーが開催され、それ以降、年々全国各地に広がっていきました。

兵庫県においても、1921年（大正10年）5月1日に、ここ「神戸大倉山公園」で初めてのメーデーが開催され、約1,000名が参加したと記録されています。その後、県下各地に広がりを見せましたが、軍国主義国家体制が強まるなか、労働者や労働組合への激しい弾圧が続き、1935年（昭和10年）の第16回メーデーをもって中断を余儀なくされてしまいました。戦争によりメーデー空白となった昭和11年からの10年間は、まさに暗黒の時代だったのです。私たちが、世界の恒久平和を希求し続ける原点はここにあると言えます。

戦後のメーデーは、労働運動の急速な高まりと、働く者の団結と連帯によって、1946年（昭和21年）に第17回メーデーとして復活しました。

兵庫県では、同年の5月1日、県下10地区（神戸・姫路・網干・赤穂・相生・明石・西宮・尼崎・三田・但馬）で開催され、雨のなか7万5,000人が参加したと記録されています。神戸会場は湊川公園だったということです。

それ以降、先輩諸氏の高い志、情熱、そしてご尽力により、様々な困難を乗り越えて継承され、今年の第90回に至ったということです。

今を生き、それぞれの立場で使命・役割を担う私たち働く者は、こうしたメーデーの起源や歴史、労働運動のタスキの重みを受け継ぎ、この節目を機に、改めて「すべての働く者の拠り所となる力強い労働運動」をより一層推進し、社会的役割を果たしていくとの決意を固め合おうではありませんか。

メーデーの起源は「1日8時間労働制」を求めて労働者が立ち上がったことだったと先程申し上げました。本年4月から「働き方改革関連法」が施行されたことは、このメーデー起源に関連づけて考えると歴史的な意味合いも重ね合わせてしまいます。働き方改革をすべての働く仲間のものとし、長時間労働を是正し過労死・過労自殺を根絶していくことを最優先しなくてはなりません。そして、すべての働く仲間が生き生きと働くことのできる世の中にしていくこと。それは、先程触れた、メーデー起源の時代に作られた歌のような働き方・生き方が常識として定着するような企業風土の変革・労使の意識改革を追い求める営みでもあるでしょう。そして「働くことを軸とする安心社会」という連合がめざす社会実現へのアプローチでもあります。

私たちの兵庫県には、諸先輩の時代から公労使三者の緊密な連携基盤があります。ひょうご仕事と生活センター開設や、ひょうご労使相談センターによる相談体制など、連携・力合わせによる施策により成果・実績を挙げてきました。働き方改革推進という重要な時期にあたり、兵庫県・兵庫労働局・兵庫県経営者協会と連合兵庫の四者は、過日、「時間を大切にする兵庫県」を宣言し、兵庫県民にとっての、「働く時間」「生活する時間」「休息する時間」それぞれの価値を高めていく取り組みの推進を確認し合いました。私たちは、この宣言を共有し、自らの課題として実効性を高めるべく取り組みを強めて参りましょう！

次に、統一地方選挙の結果と参議院選挙に触れておきたいと思います。

今次統一選において、連合兵庫推薦・支持候補の勝利に向け奮闘・努力を頂いた全ての皆さんに敬意を表しますとともに、一部に残念な結果があったものの、当選を果たされた候補者の勝利を共に喜び合いたいと存じます。

選挙結果は、前後半戦を通して「61名」の推薦・支持候補のうち「48名」が当選を果たされ当選率は約8割と前回は若干上回る結果となりました。

とくに、県議会議員選挙の結果、私たちの推薦支持議員を中心とした会派「ひょうご県民連合」が第二会派に返り咲いて頂いたことは大きな成果であったと受け止めています。

一方で課題も明らかとなりました。投票率の低下や無投票当選率の増加という状況です。国政選挙における低投票率の傾向とも相俟った、民主主義の根幹を揺るがす事態として課題認識を共有しなくてはなりません。主権者教育の充実をはじめ、国民一人ひとりの政治参加につながる施策を早急に進めていく必要があります。また、今次選挙の特徴として、維新勢力が大阪ダブル選挙による盛り上がりの中で、前回に続き、兵庫県においても阪神間を中心に勢力の維持・拡大を許す結果になったことが挙げられます。しっかりと分析し、次なる闘いにつなげなくてはなりません。

7月21日投票で施行予定の参院選本番まで残すところ70日を切りました。安倍政権が衆参ダブルに打って出る可能性も取りざたされています。

そんな緊迫した情勢下、連合兵庫は過日、ようやく参院選兵庫選挙区の候補者として、唯一の女性候補でもある立憲民主党「安田真理」候補の組織推薦を確認・決定いたしました。短期集中決戦とならざるを得ない状況に加え、近年において経験のない支援政党の分散という困難な状況を乗り越えなくてはなりません。比例区選挙における連合組織内候補の必勝と共に、兵庫選挙区における働く者の議席奪還をめざし、文字通り組織の総力を結集しようではありませんか。働く仲間の皆さんの格段のご理解のもと、最大限の「力合わせ」につなげるご支援を要請する次第でございます。

結びと致します。今私たちは様々な難題を抱えています。貧困や格差が拡大し、民主主義が危機に瀕する今だからこそ、積み重ねてきた歴史の重みの象徴である「団結・連帯の力」をもってすれば、どのような状況も乗り越えられるはずだと勇気を持ちましょう。働く者の厳しい現状に怒りを持ちましょう。私たちこそが、働く者こそが、「主役」なのです。未来を切り拓くのは私たち自身であるという自覚をさらに高めていけば、どのような困難も乗り越えていくことができるのです。その信念を本メーデー集会で改めて確認し合おうと呼び掛けるものです。第90回メーデー万歳！ 共に頑張ってください！